

## —この映画がなければ「攻殻機動隊」は生まれていなかった— 押井守が人生と映画について語るオリジナル番組 「この映画が観たい」ムービープラスで2月放送

CS映画専門チャンネル「ムービープラス」(ジュピターエンタテインメント株、東京都千代田区、代表取締役社長:寺嶋博礼)で放送中のオリジナル番組「この映画が観たい」は、様々な分野で活躍する著名人の方々にかけがえのない“映画体験”と、それにまつわる人生のエピソードをお聞きする番組です。2月は、「機動警察パトレイバー」や「GHOST IN THE SHELL / 攻殻機動隊」などで知られる映画監督・演出家の押井守さんが登場。彼がセレクトした映画「宇宙水爆戦(1954年)」「白馬城の花嫁(1961年)」「2001年宇宙の旅(1968年)」「映画に愛をこめて アメリカの夜(1973年)」「ブレードランナー(1982年)」の5作品について、番組で熱く語っていただきました。



### <押井守さん 収録インタビュー>

高校の途中までは、絶対にSF作家になると思っていて「押井守SF傑作短編集1」なんてタイトルをつけて自分で勝手に本を作ったりしていました。SF作家になりたくてなりたくて仕方なかった高校生の頃に観たのが「2001年宇宙の旅」。当時は70ミリ映画で、スクリーンがものすごく横長で。かなり前のほうの席で観たからスクリーンが大湾曲していて、宇宙船が“しなっ”ていました(笑)。そんな状況での鑑賞だったけど、めちゃくちゃ感動した。脳天に一発食らったっていう、痺れて立てないくらいだった。今思うと、何をそんなに感動したのか分からないんですけど。でも、そのあと30年くらい経ってから観たら、この映画の正体が分かりました。「人間はなぜ人間になったか」という思想的背景をそのまま映画にしたような作品です。ストーリーや役者がすごいとか、そういう映画じゃなく思想そのもの。それが分かるまでには随分と時間がかかりましたね。あと、今のCGならもっとすごいものが作れるだろうと思ったら大間違いです。でっかい模型を作って撮影した意味があるんです。CGは空気は映らないし、あつという間に古くなる。だけど人間が手で作ったものって最後まで迫力や説得力がある。いまだにこれを超える宇宙空間の迫力や存在感のある映画って、たぶんないと思います。

「映画に愛をこめて アメリカの夜」には、見事に騙されました！たしか大学2年生の頃に観たんだと思うんだけど、観た直後に「映画監督になるしかない！映画監督にならなきゃ生きていけない！」と思ったんです。劇中に「君や私のような人間はね、映画の中でしか幸福になれないんです」という有名なセリフがあるんです。だから、現実との折り合いなんて諦めろっていう話なんだけど、そこに痺れた。自分もそう思い込んだんだよね。まあ、後になってそれは勘違いだったと判明するんだけど(笑)。

どうせこれ挙げるんだろ？って思ったんじゃないかと思うんだけど、やっぱり「ブレードランナー」は外せません！映画ベスト10を決めてくれと依頼された時ってその時の気分で基準を変えるんだけど、どの基準に照らしても必ず入ってきちゃうのがこの作品。僕は「感動をもらった」とかそういうの大っ嫌いなんだけど、この映画には確かに勇気づけられた。「映画にしかできないことってなんだろう」とずっと思ってきた自分に、映画でしかできないことは「世界観」だという認識に確信を持たせてくれたから。これを観たときに、「やっぱり自分は正しかった」と思えたんだよね。だけど、僕は思考が極端だったんで「世界観だけでいいんだ！」と思い込んだ(笑)。これが大きな勘違いで。ストーリーもキャラクターも必要だったんです。そういうことで、何度も何度も痛い目にあって、その結果として自分なりの考え方ができてきた。全部、戦いから学んだ「戦訓」ですね。だから、僕の話は聞く価値があると思うんだけど、「うるせえな」ってなもんで誰も聞いてくれない(笑)。色んなことを考える契機になったよ。いまだに考えているけどね。

「ブレードランナー」って、どういうストーリーだったか覚えている人はそんなにいないんだけど、「なんかすごいもん観ちゃった」というのはあるんだよね。架空の未来の街を、これほど生々しく表現した映画はほかにない。近未来でSFの世界を描こうと思ったら、もうこの映画の門をくぐらないわけにはいかないんですよ。当時、「ブレードランナー」っぽい映画がたくさん作られました。私の「攻殻機動隊」とかもそうです。ただパクリだけじゃ申し訳ないから色々要素を付け加えたりはしたけど、この映画がなければ「攻殻機動隊」も生まれなかったことは間違いなしでしょうね。

そのほか、オールタイム・ベストに挙げた作品のお話に加え、幼少期の映画体験や映画への思いなど、貴重なエピソードが満載の「この映画が観たい#65 ~押井守のオールタイム・ベスト~」。  
ぜひ、ムービープラスでご覧ください。

## 「この映画が観たい#65 ～押井守のオールタイム・ベスト～」

初回放送：2月4日(月)23:00～23:30

再放送：2月8日(金)18:00～18:30、13日(水)11:15～11:45、15日(金)19:00～19:30、  
20日(水)18:15～18:45

### 押井守 プロフィール

映画監督・演出家。1951年生まれ。東京都出身。東京学芸大学教育学部美術教育学科卒。タツノコプロダクションに入社、テレビアニメ「一発貫太くん」で演出家デビュー。その後、スタジオぴえろに移籍し、「うる星やつら」ほか、数々の作品に参加。後にフリーとなる。日米英で同時公開された劇場版アニメ『GHOST IN THE SHELL / 攻殻機動隊』(95)はジェームズ・キャメロン監督やウオシャウスキー兄弟ほか海外の著名監督に大きな影響を与えた。また、『紅い眼鏡』以降は、『アヴァロン』など多数の実写映画作品にも意欲的に挑戦を続けている。主な監督作品『機動警察パトレイバー』『GHOST IN THE SHELL / 攻殻機動隊』『スカイ・クロラ The Sky Crawlers』など。最新作は『ガラム・ウォーズ』。

**押井守さんが監督を務めた『うる星やつら2 ビューティフル・ドリーマー』は、2月6日(水)23:00～ほか放送！  
「この映画が観たい」番組とあわせてお楽しみください！**

## 『うる星やつら2 ビューティフル・ドリーマー』

初回放送：2月6日(水)23:00～翌1:00

再放送：2月11日(月・祝)16:45～18:45、2月17日(日)深夜1:00～3:00、  
2月23日(土)10:15～12:15

監督・脚本：押井守

声の出演：平野文／古川登志夫／神谷明

先日、フランスのアングレーム国際漫画祭でグランプリを受賞したことで話題の高橋留美子原作、人気コメディ・アニメの劇場版第2作。とある一日を延々と繰り返す“夢の世界”に放り込まれた友引町の人々を描く。

学園祭を翌日に控え、あたるやラムたち友引高校の生徒は泊まり込みで最後の準備を進めていた。だが、次の日彼らは再び学園祭の準備に取り掛かろうとする。時間が進まず同じ一日を繰り返していることに気付いた養護教諭のサクらは、全員に帰宅を命じるも、すでに友引町は異常事態に陥っていた……。



©1984 東宝 ©高橋留美子/小学館

## 「うる星やつら」グッズが当たるプレゼントキャンペーン実施中！

放送を記念して、ポーチ、マグカップ、ランチトートが当たるプレゼントキャンペーンを実施中！

応募、詳細はこちら⇒ <http://www.movieplus.jp/square/present/>

ムービープラスとは 今年開局30周年を迎える日本最大級の映画チャンネルです。ハリウッドのヒット作をはじめとする国内外の選りすぐりの映画、映画祭、最新映画情報を放送し、J:COMなど全国のケーブルテレビやスカパー！、IP放送を通じ、約715万世帯のお客様にご覧いただいています。

### ■ 一般の方のお問い合わせ先 ■

ムービープラス カスタマーセンター

TEL: 0120-945-844

(受付時間10～18時/年中無休)

### ■ 報道関係の方のお問い合わせ先 ■

ジュピターエンタテインメント(株) ムービープラス PR担当

TEL: 03-6365-8410 (代表)